



子供が学びをつくる 国語科（書くこと）

現実の状況

1年生に

説明書をプレゼントするために

文章で

説明書（マニュアル文）で

動くおもちゃの 説明書づくり

説明的な文章 説明書（マニュアル文）

「中」

順序を分かりやすくする数字

操作（「すること」）

操作の説明（「気をつけること」）

文章の構成と文と文との続き方を
明確にする

1年生に

文章で

説明書をプレゼントするために

説明書（マニュアル文）で

課題に応じて、
活動形態を選択する

順序を分かりやすくする数字

操作（「すること」）

操作の説明（「気をつけること」）

課題に応じて、表現したり、
修正したり、振り返ったりする

授業設計の概要

【カリキュラム・マネジメント】 生活科との関連的な指導

子供が、おもちゃの作り方と遊び方を伝えたいという思いや願いをもったり、おもちゃづくりの楽しさを感じたりするために、生活科「うごくおもちゃを作ろう」において、制作した動くおもちゃの説明書をつくる単元を構成しました。



【メタ認知を促す支援】 既習の文章と説明書との比較

文章の構成と文と文との続き方の視点で児童のメタ認知を促したいと考えました。そこで、「始め」-「中」-「終わり」の構成を生かして書いたり、順序を分かりやすく表す数字に気付いたりするために、前単元「おもしろいもの見つけたよ」のモデル文と比較する場面を設定しました。また、操作と操作の説明という文と文との続き方に気付くために、操作を「すること」、操作の説明を「気付いたこと」として、モデル文の分析とその結果を色分けして提示しました。

【作り芝】
一 紙コップに紙を巻く。
二 紙コップにわりばしをはりつける。
三 紙コップの底をこぼれ、わりばしの先も、ぬのガムテープではりつけます。わりばしをまっすぐに、紙コップの底からまっすぐにまっすぐに、しっかりとはりつけます。
三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
二十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
三十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
四十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
五十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
六十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
七十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
八十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十一 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十二 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十三 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十四 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十五 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十六 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十七 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十八 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
九十九 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。
百 しんぶん紙を巻いて、玉を巻く。

【メタ認知を促す支援】 視点の明示

児童に文章の構成と文と文との続き方の視点を確実に捉えさせたいと考えました。そこで、「はじめ」-「中」-「おわり」の構成や順序を分かりやすく表す数字、操作と操作の説明の視点を基にしながら説明書を書くために、モデル文の分析結果を掲示しました。また、掲示したモデル文の分析結果を基にしながら、書いたり、説明書を声に出して丁寧に読み返したりする場面を設定しました。



【メタ認知を促す支援】 伝わりにくい文章とモデルの文章、自分の書いた文章との比較

文章を書く時と推敲する時に、手順や文と文との続き方を考えると伝わりやすい文章が書けることに気づき、振り返ることができるように、伝わりにくい文章やモデル文、自分の書いた文章を比較する場面を設定しました。



授業のリフレクション

文章の特徴を捉えて書く子供

【カリ・マネによる学びをつくる姿】 2年生なりの高い目的意識

生活科「うごくおもちゃを作ろう」において、制作した動くおもちゃの説明書をつくる単元を構成したことが、「早く1年生に伝えたい。」「プレゼントするのが楽しみ。」などという子供の発言につながったと考えます。子供は1年生におもちゃを作ってもらいたいという思いをもつことができました。



【メタな姿】 学習内容を活用して構成を工夫して書く子供

前単元「おもしろいもの見つけたよ」のモデル文と比較する場面を設定したことにより、「始め」-「中」-「終わり」の構成や順序を分かりやすく表す数字に気付いたりする子供の姿が見られました。また、それを生かしながら文章を書く子どもの姿が見られました。

操作を「すること」、操作の説明を「気付いたこと」として、モデル文の分析とその結果を色分けして提示したことにより、教師が提示したモデル文には、「青（すること）」の後に赤（気を付けること）がない。」と発言するなど、文と文とのつながりに気付く子どもの姿が見られました。



【メタな姿】 自分の書いた文章を振り返る子供

モデル文の分析結果を掲示するとともに、掲示したモデル文の分析結果を基にしながら書いたり、説明書を声に出して丁寧に読み返したりする場面を設定したことにより、「はじめ」-「中」-「おわり」の段落を構成しながら文章を書く子供の姿が見られました。また、モデル文と書いた文章とを比較しながら、順序を分かりやすく表す数字を使って書くことができているか指で文字を追ったり、声に出して丁寧に読み返したりする子供の姿が見られました。



【メタな姿】 学習内容を活用して推敲しようとする姿

伝わりにくい文章とモデル文、自分の書いた文章とを比較する場面を設定したことにより、文章を書く時と推敲する時に、手順や文と文との続き方を考えると伝わりやすい文章が書けることに気付く姿が見られました。それを生かしながら、手順や文と文との続き方について推敲する子供の姿が見られました。



【学びをつくり続ける子供】

子供が学びをつくり続けるためには、操作（「すること」と操作の説明（「気を付けること」）の文と文の続き方を整える有効性を感じながら、他の文章の種類においてもその視点を生かす必要があります。そのため、文と文の続き方を「続き方」「つながり」などと短い言葉で子供に提示し、印象付ける必要があります。また、説明書（マニュアル文）だけでなく、他の文章の種類の特徴に応じながらも文と文の続き方を意識して書くよう支援し続ける必要があります。

実践者：松下 裕幸

「おもちゃのせつめい書を書こう」【読むこと・書くこと】(17時間扱い)

授業者 松下裕幸

1 教材の特徴

背景
 これからの時代に
 求められる国語力につ
 いて
 国語ワーキンググル
 ープにおける審議の取り
 まとめ

近年のグローバル化や高度情報化に伴い、コンピュータや情報通信ネットワーク等が普及し、私たちは膨大な情報の中で生活しています。文化審議会(2004)は、膨大な情報を適切に活用するためには、情報を速やかに判断・処理する能力や的確に文章をまとめて自らの情報を発信する能力などが重要であることを指摘しています。また、中央教育審議会(2016)は、高度情報化の影響による文体の変化に触れながら、学校教育において、整った文章を書く学習や文章を「書くこと」の学習過程に沿って深く考えて書くことが重要であることを指摘しています。これは、文章を書く力の育成や書くことの学習過程を意識した指導の重要性を示唆していると考えられます。このように、グローバル化や高度情報化する社会をよりよく生きるためには、学校教育において、書く力の育成を図ることが強く求められています。

**書くこととメタ
 認知を促すこと
 との関連**
 書き手のメタ認知的知
 識やメタ認知的活動が
 産出文章に及ぼす影響
 について

崎濱(2003)は、大学生と専門学校生を対象として、情報伝達文の文章産出の活動に対するメタ認知的知識の構造を検討した結果、「伝わりやすさ」などの因子を見出しました。また、熟達群の被験者は非熟達群に比べ、「伝わりやすさ」の因子を重視していることや、非熟達者に対しては、熟達者ほどはメタ認知的知識を重視しておらず、メタ認知的活動の中でもそれらをあまり活かしていないことを指摘しています。崎濱(2003)は、文章表現教育を行うにあたり、書き手自身に「伝わりやすさ」に関するメタ認知的知識を重視させるだけでなく、「伝わりやすさ」のメタ認知的活動を効果的に行えるようなトレーニングを課す必要があることを示唆しています。

そこで、本実践を通じて、「伝わりやすさ」のメタ認知的活動を効果的に行うための支援について検討する必要があります。

**「伝わりやすさ」の
 要素と概念**

まず、「伝わりやすさ」を明確にしました。

子供の発達の段階と本単元で扱う説明書の特徴を踏まえると、「伝わりやすさ」の要素は右のように整理することができます(図1)。「伝わりやすさ」の要素には、修辭的な側面と内容的な側面の2つがあります。修辭的な側面と内容的な側面の要素は、図1のように発達に伴い、それぞれの要素が関連し合いながら「伝わりやすさ」の概念を形成していくと考えられます。

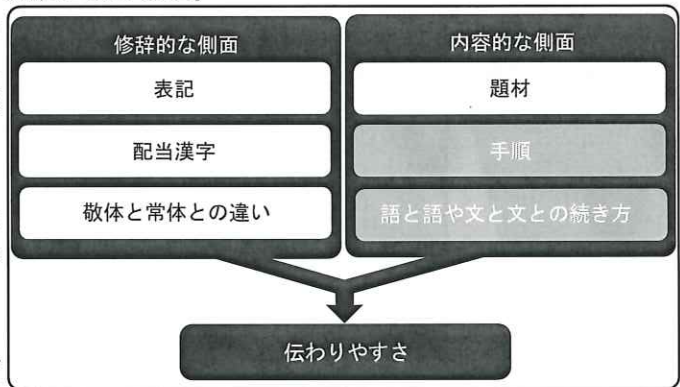


図1 第2学年の発達の段階を踏まえた「伝わりやすさ」の要素と概念

本単元においては、学習の系統性を踏まえ、内容的な側面における物を作ったり作業したりする手順と語と語や文と文との続き方を重点的に扱うこととします。

次に、本単元で子供が獲得するメタ認知的知識を明らかにしました。

**本単元で
 獲得する
 メタ認知的知識**

本単元で子供が獲得するメタ認知的知識は、「手順や文と文との続き方を考えると伝わりやすい文章を書くことができる。」という方略についての知識と「文章を書く時と推敲する時に使えばよい。」という条件的な知識です。方略についての知識と条件的な知識の両方を獲得させることができれば、それに基づいたメタ認知的活動が行われ、子供は主体的に伝わりやすい文章を書こうとすると考えられます。

**本単元で鍛える
 見方・
 考え方**

本単元では、文章を記述したり推敲したりする際に「物を作ったり作業したりする順序」「文と文との続き方」についての見方・考え方を働かせます。「物を作ったり作業したりする順序」とは、一、二、三……など番号を用いて順序を分かりやすく表すことや文章の冒頭で内容を大まかに説明することです。「文と文との続き方」とは、つながりであり、前文の意味が明確になるような前後の文のつながりです。

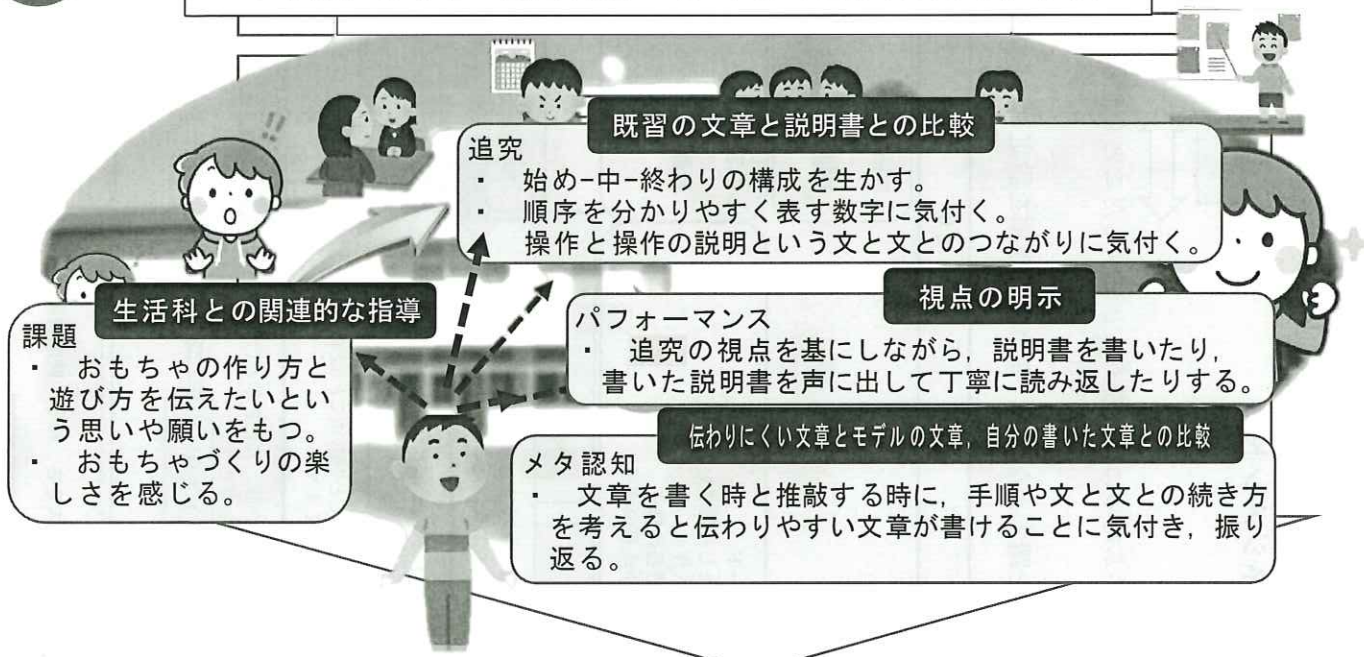
2 目指す子供の姿

	課題設定	課題追究	パフォーマンス
国語科「書くこと」において目指す子供の姿	伝えたいことを明確に書くためには、相手や目的、場面や状況等を意識して、話題を設定することができる。また、話題を設定したあと課題を追究する中で、新たな課題を設定することができる。	課題を追究する過程で、追究方法や追究形態を選択することができる。また、他者対話し、課題に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。課題を追究する過程で、追究方法や追究形態を振り返ったり、再選択したりすることができる。	追究した結果を、相手や目的、場面や状況、方法、言語等への意識を明確にしながら、身に付けた国語（読む、書く、話す・聞く）の知識や技能を生かして書くことができる。また、読み手の評価に基づき、書いたものを修正したり、次の文章に生かしたりすることができる。
国語科「書くこと」で目指す12月時点での2年生の姿	伝えたいことを明確に書くためには、順序を意識して書く必要があることに気付きながら、話題を設定することができる。	順序を整えるためには、「始め-中-終わり」の構成や順序を示す書き方、語と語や文と文との続き方に注意する必要があること、声に出しながら一文一文丁寧に読み返したり、ペアで読み合ったりする必要があることに気付いている。	「始め-中-終わり」の構成や順序を示す書き方で記述することができる。また、声に出しながら一文一文丁寧に読み返したりペアで読み合ったりしながら、書いた文章を整えることができる。書くことの知識や技能を生かして、話したり書いたりするなど表現したり、表現を修正したりすることができる。

「伝わりやすさ」の概念の形成

単元の目的

本單元における「自己を見つめ、学びの主体者となる」子供



単元の重点目標

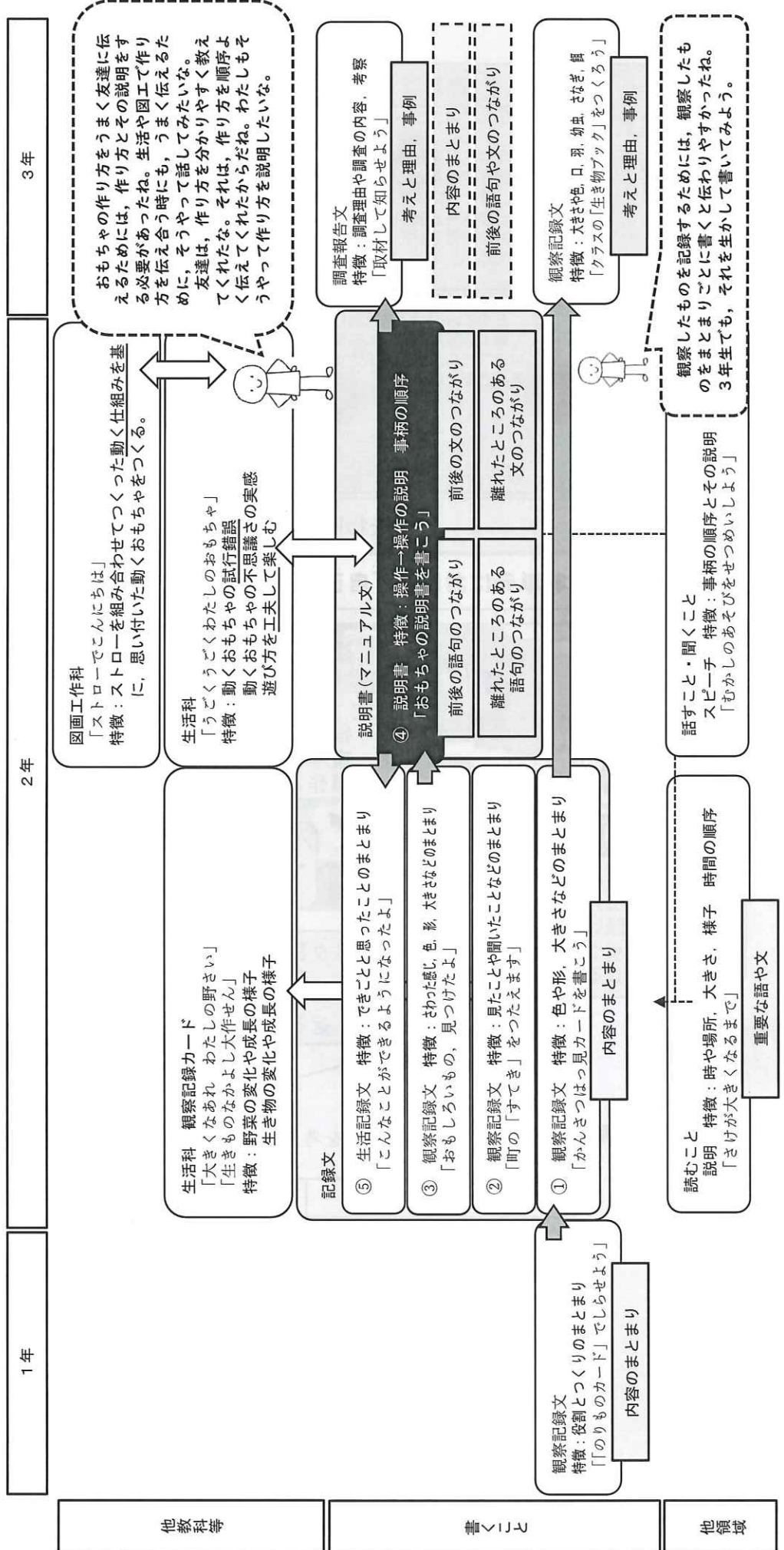
文と文とのつながりを考え、書き表し方を工夫することができる。

本単元の学習内容を身に付けた姿

知識・技能【知技】	思考・判断・表現【思判表】	主体的に学習に取り組む態度【主】
長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の「へ」及び「を」、句読点を文章の中で正しく使っている。	前文の意味を明確にするために、「操作」と「操作の説明」を記述したり、読み返したりしている。	言葉を通じて積極的に友達と関わるとともに、文と文とのつながりを考えて記述したり読み返したりするなど、粘り強く取り組み、言葉をよりよく使おうとしている。

3 子供が主体者となるカリキュラム・マネジメント

- 「考えの形成、記述」に焦点化を図った例
 - ・ メタ認知をはたらかかせ、主体者となって学ぶためには、書くことで学んだことを他領域・他教科等で生かす必要がある。そのために、書くことと他領域・他教科等との関連を明確にした。
 - ・ 効果的な指導を行うために、文章の種類を踏まえながら、重点指導事項を設定し、指導の系統性を明確にした。



4 単元計画

予想される子どもの発言

読むことに関する予想される子供の発言

書くことに関する予想される子どもの発言

子供の学習活動 (○) 教師の支援 (課題設定, 課題追究, パフォーマンス, メタ認知)	
1	<p>「しかけ絵本」を作ろう(読むこと)</p> <p>○ 「しかけ絵本」の作り方を写真から確かめる。 課題 写真から「しかけ絵本」のおもしろさを確認する。</p> <p>おもしろそうだな。 「しかけ絵本」を作りたいな。 どうやって作るのかな。</p>
2	<p>○ 文章全体に何が書かれているかを大づかみに把握するために、「しかけ絵本」の材料と手順を確かめる。 追究 順序を分かりやすく表す数字を丸で囲むよう指示する。</p> <p>「しかけ絵本」の作り方がだいたい分かった。 手順がだいたい分かった。 数字の順番に作ればいいんだね。</p>
3	<p>○ 冒頭での「すること」の大まかな説明、「すること」「気をつけること」という表現上の順序を捉えるために、「1 どうぶつの顔をかく」を読み、台紙に顔を書く。 追究 大まかな「すること」を青、「すること」を黒、「気をつけること」を赤で囲むよう指示する。</p> <p>台紙の「おもて」と「うら」に、顔をかくんだね。 これから下に食べる前の顔、上に食べた顔を書くんだね。 しるしの向きに気をつけてかくんだね。</p>
4	<p>○ 「すること」「気をつけること」という表現上の順序を捉えるために、「2 おさらの紙としかけの紙に食べものをかく」までを読み、食べ物を書く。 追究 「すること」を黒、「気をつけること」を赤で囲むよう指示する。</p> <p>おさらの紙としかけの紙に、食べ物を書くんだな。 「のりしろ」の部分は、やまおりにすることに気をつけるんだな。 前も「すること」「気をつけること」の順番だったな。</p>
5	<p>○ 冒頭での「すること」の大まかな説明、「すること」「気をつけること」という表現上の順序を捉えるために、「3 しかけを作る」までを読み、しかけの紙が動くようにする。 追究 大まかな「すること」を青、「すること」を黒、「気をつけること」を赤で囲むよう指示する。</p> <p>しかけの紙が動くようにするんだな。 これから3つのことをするんだな。 「まず」「つぎに」「そして」は順序を表しているね。</p>
6 7	<p>○ お話を考えたり工夫したりすることを通じて、さらに説明書を読んだり作ったりしてみたいという意欲を高める。 課題 子供がおもちゃの作り方と遊び方を伝えたいという思いや願いをもつために、他のしかけ絵本や工夫を紹介する。</p> <p>お話を考えると楽しいな。 工夫して世界に一つしかない「しかけ絵本」を作りたいな。 他のおもちゃも説明書を読んで作ってみたいな。</p>
生活科	<p>せかいでひとつ わたしのおもちゃ</p> <p>○ 動くおもちゃを考える。 ○ 何度も試しておもちゃを作る。 ○ 遊び方やルールを工夫する。 ○ 楽しく遊ぶ。 ○ 友達のおもちゃの良いところを見付ける。</p> <p>袋ロケットの作り方を1年生に教えてあげたいな。 袋ロケットの遊び方も教えてあげたいな。 1年生におもちゃの説明書をプレゼントしたいな。</p>
8	<p>おもちゃのせつめい書を書こう(書くこと)</p> <p>○ おもちゃの説明書の見本を見る。 課題 子供がおもちゃの作り方と遊び方を伝えたいという思いや願いをもつために、生活科で作ったおもちゃの説明書を紹介する。</p> <p>説明書を書きたい。 1年生に説明書を作ってあげたい。 説明書なら会わなくても教えてあげられるな。</p>
9	<p>○ おもちゃの作り方や遊び方を思い出し、メモに書く。 追究 「すること(したこと)」を順序よく思い出すよう指示する。</p> <p>袋ロケットの作り方は、～だったな。 袋ロケットの遊び方は、～だったな。 説明書に何をどのように書くのかな?</p>
10	<p>○ 説明書の組み立て表を書くために、モデル文の構成を捉える。 追究 「始め」-「中」-「おわり」の構成と順序を分かりやすく表す数字に印をつけるよう指示する。</p> <p>前に「始め」-「中」-「終わり」を学習したよ。 「始め」は、何のことかについて書くんだね。 「中」は「すること」を順序よく書くといいね。</p>
11	<p>○ メモを基にして、組み立て表の「始め」「中」「おわり」を書く。 追究 「始め」-「中」-「おわり」の構成と順序を分かりやすく表す数字を使って書くよう指示する。</p> <p>「始め」には、文章の内容を簡単に書くんだね。 1, 2, 3……で大まかな「すること」を書くんだね。 「すること」の後は、「気をつけること」を書くんだね。</p>
12 13	<p>○ 組み立て表を基にして、おもちゃの説明書を書く。 追究 子供が「すること」と「気をつけること」を意識して記述するために、教師はモデル文の色を確認するよう指示する。</p> <p>1, 2, 3…で作り方を書くんだな。 書き出しに何をやるか簡単に書くのを忘れていたな。 「すること」の後は、「気をつけること」を書くんだな。</p>
14	<p>○ 説明書に不足している文があることに気付くために、「気をつけること」がない説明書でおもちゃを作る1年生の動画を見て、うまく伝わらない理由を考える。 課題 子供がもっと上手におもちゃの作り方と遊び方を伝えたいという思いを膨らませるために、うまく伝わらない動画を提示する。</p> <p>1, 2, 3…で作り方を書いてないからかな。 はじめに何をやるか簡単に書いていなかったからかな。 作り方の後には、気をつけることを書いてないからかな。</p>
15 (本時)	<p>○ おもちゃの作り方をうまく伝えるために、操作の説明の文を付け加えることに気づき、書いた説明書を読み返す。 パフ 子供が「すること」と「気をつけること」の視点で、書いた文章を読み返すことができるように、モデル文と「気をつけること」がない文章と比較するよう促す。</p> <p>「すること」だけだったら、詳しく伝わらないんだ。 「すること」の後に「気をつけること」を書いた方がいいな。 「気をつけること」があるところを詳しく説明することになるね。</p>
16	<p>○ 自分の文章や表現の良いところを見付けるために、主に順序と文と文との続き方を観点として感想を伝え合う。 メタ 子供が文章を書く時と推敲する時に、順序や文と文との続き方を考えると伝わりやすい文章が書けることに気付くために、教師は学習活動を振り返る場面を設定する。</p> <p>1, 2, 3……で大まかに「すること」を書くことができるね。 「すること」の後に「気をつけること」を書くことができるね。 文章を書く時には、順序や文と文との続き方に気を付けたいね。</p>
17	<p>○ プレゼントした説明書で、上手におもちゃ作りをする1年生の様子を動画で振り返る。 メタ 子供が順序や文と文との続き方を考えると伝わりやすい文章が書けることに気付くために、学習活動を振り返る場面を設定する。</p> <p>うまく伝わってよかった。 正しく書けたからうまく伝わったんだと思う。 文章を書く時には、順序や文と文との続き方に気を付けたいね。</p>

国語

5 本時案 (15/17)

本時の目標
前文の意味を明確にするために、前後の文のつながりを確かめることができるようにする。

学習活動 (○) と子供の姿 | 教師の支援 (☆, 課題, 追究, パフ, メタ) と評価 (◇) ・評価方法 (<>)

○ 前時の学習を振り返り、これまでに作った説明書では、うまく伝わらないことやその理由を思い出す。 | **課題** 子供がうまく伝えたいという意欲を高めるために、教師は前時の動画の一部を提示し、うまく伝わらないことやその理由を確認する。

1年生は、おもちゃをうまく作ることができていなかったな。	説明書に詳しい作り方が書けているはずなのに……。	順序よくかけていなかったのかな。	「はじめに」「つぎに」「そして」を使えばいいのかな。	うまく伝わらない理由は何かを考えるために、文章を読み返してみよう。
------------------------------	--------------------------	------------------	----------------------------	-----------------------------------

もっとつたわりやすい文しようにするために、読みかえして、たしかめよう

○ うまく伝わらない理由を見付けるために、書いた文章を読み返す。 | **課題** 子供が推敲の視点を明確にするとともに、読み返す必要感を高めるために、教師は書いた文章を読むよう指示し、うまく伝わらない理由を簡単に確認する。

○ うまく伝わらない理由を明確にするために、1年生に読んでもらった説明書(「気をつけること」がない文章)を読み、モデル文と比較する。 | **追究** 子供が「気をつけること」が必要であることに気付くために、教師は「気をつけること」がない文章を提示し、モデル文と比較するよう促す。

あれ?文章が短いぞ。どこか足りないんじゃないかな。	1年生に読んでもらった説明書は「気をつけましょう」がない。	先生!なんでこんな説明書を見せたの?これでは、上手く伝わらないよ。
---------------------------	-------------------------------	-----------------------------------

○ 「気をつけること」があると伝わりやすいと思う理由を考えて述べる。 | **追究** 子供が「気をつけること」が「すること」を補うことに気付くために、教師は1年生に読んでもらった説明書には、「すること」が書かれてあることを強調し、「すること」だけでは伝わりにくい理由を問う。

「気をつけること」を書かないとうまく伝わらないじゃん。	だってさ、「気をつけること」が無かったら、どうやって作ればいいのか分からないね。	「すること」が詳しく伝わるから「気をつけること」を書いた方がいいよ。
-----------------------------	--	------------------------------------

○ 「すること」と「気をつけること」の文の位置関係に気付く。 | **追究** 子供が「すること」と「気をつけること」の文の位置関係に気付くために、教師は文章の終わりに「気をつけること」を書き加えることを提案する。その際、モデル文の色(すること…青, 気をつけること…赤)に着目している子の意見を取り上げる。

「すること」と「気をつけること」はセットなんだ。	だめだよ。すぐ後にあった方がそれをする時に気をつけることだって分かりやすいよ。	ほら!「しかけ絵本を作ろう」の説明書「すること」の後に、「気をつけること」の文がある。青、赤、青、赤の順に進んでるよ。
--------------------------	---	---

「すること」のすぐ後に「気をつけること」があったら、つたわりやすくなる。

○ 書いた文章の「気をつけること」の有無と位置を確認するために、「中」を読み返す。 | **パフ** 子供が前後の文のつながりを意識しながら読み返すために、教師は推敲の視点を明示したり、読む箇所を指で追うように指示したり、声に出して読んだりするように指示する。

あれ?「気をつけること」を書いてなかった。	「コップ」のどこに貼り付けるかを書いていなかった!	輪ゴムをとめる時に、「広げてからとめるとめやすい。」って書こう。
-----------------------	---------------------------	----------------------------------

○ 友達が書いた文章を読み、前後の文のつながりを確認し、助言する。 | **メタ** 子供が書いた文章の前後の文のつながりを繰り返し確かめるために、教師は友達からの助言を受ける場面を設定する。

ほんとだ!○○さんが言うとおおり、「気をつけること」がない。	あれ?ここだけ「気をつけること」を書いてなかった。	○○ちゃんのは、「気をつけること」がちゃんと書いてある。	ぼくのは、ちゃんと書けていた。	ぼくは、○○ちゃんのおかげでちゃんと書けた。
--------------------------------	---------------------------	------------------------------	-----------------	------------------------

◇ 前後の文のつながりを意識し、指で追ったり声に出したり、印をつけたりしながら読み返し、確かめることができる。【思判表】<原稿用紙>

○ 「気をつけること」を意識しながら読み返すことができたかについて振り返る。 | **メタ** 子供が「気をつけること」を意識して読み返すことができたかについて振り返るために、教師は「気をつけること」を書き加えられた子供を取り上げて紹介し、学習活動を振り返るよう指示する。